



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 51 号

2008.4.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

も く じ

お知らせ

- ー 冬季閉館について
- ー 八幡湿原自然再生工事が進行
- ー 『苅尾 第 16 号』の原稿を募集

活動報告

- ー スノートレッキング

観察会案内

- ー 千町原と霧ヶ谷の観察会
- ー カスミサンショウウオの産卵調査

お し ら せ

● 冬季閉館について

冬季閉館中の連絡先は、次のとおりとなります。
観察会の申込み等にご利用ください。

メール：staff@shizenkan.info（これまでどおり）
電 話：0826-72-0864
（北広島町教育委員会 生涯学習課）
ファックス：0826-35-0386（代）

● 八幡湿原自然再生工事が進行しています

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷で進んでいます。雪は降っていますが、導水路を設置した場所には水が流れているようです。

● 『苅尾 第 16 号』の原稿を募集

西中国山地自然史研究会の『苅尾』の原稿を募集しています。内容は西中国山地の自然や動植物に関する情報や自然に関わる活動報告、自然賛などで、600～1600字程度にまとめてください。写真を大歓迎します。あなたの見つけた小さな発見を、会員のみなさんにも伝えてください。

● 「ふるさと発スペシャル」で八幡を紹介

去年の春からこの冬まで、NHKが取材を続けた「八幡高原」について、下記のとおり放送されます。どうぞご覧下さい。

番組名：ふるさと発スペシャル
命きらめく小宇宙
～広島・八幡高原の四季～

【本放送】4月4日（金） 20：00～20：43

【再放送】4月6日（日） 14：15～14：58

観 察 会 報 告

● スノートレッキング

開催日時：2008年3月9日（日）10:00

積雪はまだ1メートルはあるかと思われましたが、気持ちのいい晴天で、かんじきかスキー板か考えるところでした。朝の冷え込みで表面はカチカチ。でも、ズボズボうまる所もあり、雪原を歩くのは大変で、さすがに3月の雪質だなと感じました。ウサギのフン・足跡があり、カラコギカエデにはウサギの食痕が多数ありました。ホオジロがさえずり、まだ雪がたくさんあるのに産卵のための良い縄張り確保のために早くから鳴き始めるのだそうです。カワゲラやガガンボの仲間を雪上で見ることができました。ニワトコの花芽やハンノキの雄花がずいぶん膨らんで春への準備は確実に進んでいるようです。エナガやウソが灌木の茂みの中を忙しく動き回っていました。コナラにはハチが寄生してできた虫こぶの跡、クリにはクリタマバチの寄生した虫こぶの跡がありました。アセビにはヤマドリの食痕があり、鳥にはアセビの毒は関係ないのかなと思いました。去年のクスサンやウスタビガの繭が枯れ枝にぶら下がっており、夏の時期に目にすること少ない昆虫の繁殖の痕跡を、葉のないこの時期ならではと観察することができて楽しかったです。カンボクの実はなくなっていました。ヤドリギにはまだ実がついていて、今冬は木の実が豊作だったので食べ残しがあるのかなということでした。[や]



千町原の谷部では、もう雪が解けていた。



ノウサギが囓った跡。囓った時にはこの高さまで積もっていたはずなので、ずいぶん雪が解けたことが分かる。



扇谷の上から見渡す千町原。とても良い天気、みんなの影もクッキリ。



ノウサギの足跡がくっきりと残っていた。



ハンノキの花は、もう咲きそう。



句碑の頭も見えてきた。



ネコヤナギの冬芽が膨らんでいた。



ナラエダムレタマバチがコナラの枝に作る虫えい（むしこぶ）、「ナラエダムレタマフシ」。

【みなさんの印象に残った物】

「前回とはちがい鳥が少ない。前回とは植物の芽が大きくなっている」「かんじきをはいたこと.」「木の回りの雪がとけ、カンジキをはいても深くうもった.」「ウグイスの習性. フジの巻き方による見分け方.」「ウソ」「ウソのサーモンピンクのえり」「エナガ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「雪の美しさ. 多さのおどろき.」「広い雪原を歩きとても気持ち良かった.」「よい運動になりました. 少人数で楽しかったです.」「もうすぐ春と.」「この時期まで雪が残っていて良かった.」「天気が良く気持ちよかった. (2)」「だいぶ雪も解けてきたようでしたが、ウサギ、テン、キツネの糞などたくさん見ることができてよかったです.」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 千町原と霧ヶ谷湿原の観察会

開催日時：2008年4月20日(日) 9:30
集合場所：千町原駐車場
講師：岩見潤治、上野吉雄、佐久間智子、白川勝信、和田秀次
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

野焼きの終わった千町原と、自然再生事業の進む霧ヶ谷湿原を観察します。千町原と霧ヶ谷は、どちらも昔は草刈り場として使われていました。それが、昭和の時代に牧場として開発され、乾燥化されたり牧草が植えられたりしました。今、広島県や地元の八幡地区、西中国山地自然史研究会などが協力しながら自然の再生を進めています。春先の様子を歩いて観察してみませんか？

● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2008年4月29日(火) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：内藤順一
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

自然再生事業の進められている霧ヶ谷一帯でカスミサンショウウオの産卵状況を調査します。国の絶滅危惧種であるカスミサンショウウオは山裾の湧き水があるような場所に産卵し、八幡湿原は重要な生息環境になっています。湿原の再生事業によって、どのように産卵状況が変化していくのか、とても大切な調査です。楽しみながら自然再生に参加してください。

今後の観察会予定

2008年		
5月10日	牛が首山の植物観察会	24日 雲月山の植物観察会
24日	臥竜山の野鳥観察会	9月20日 霧ヶ谷実験地の植生調査
6月8日	阿佐山の植物観察会	10月13日 サツキマスの観察会
	※ 日程が変更になりました	11月8日 ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会
14日	熊城山の植物観察会	23日 千町原の草刈り
15日	龍頭山の野鳥観察会	12月6日 巣箱・かんじき作り
29日	霧ヶ谷実験地の植生調査	7日 野鳥の観察
7月 未定	湿原の昆虫と植物	2009年
未定	こども観察会 - 自然で遊ぼう -	1月18日 冬を生きる動物たちの生態
8月3日	可愛川の水生生物観察会	2月21日 雪原のトレッキング
	龍頭山の昆虫観察会	3月8日 雪原のトレッキング
10日	カワシンジュガイの観察会	

アテツマンサクが咲いています。アマナやヒメザゼンソウ、ふきのとうも土の下から芽を覗かせています。空はなんとなく霞んでいて、いかにも「春」の風情です。こうなると、否応なく外に出たい気分が盛り上がってきます。1ヶ月前には「冬が名残惜しい」なんて言っていたのに、我ながら現金なものです。自然館の開館ももうすぐです。また今シーズンも、八幡でお会いするのを楽しみにしています。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info